

令和 6 年度 調布市立第二小学校 学校経営計画（学校長 安藤 力也）

学校の教育目標

「かがやけ二小の子」 ○「か」んがえる子 ○「が」んばる子 ◎「や」さしい子（重点） ○「け」んこうな子

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

☆目指す学校像『子どもたちの笑顔、地域・保護者の笑顔、職員の笑顔があふれる学校』
 1：個性が尊重され、一人一人が大切にされる学校 2：楽しく学び、確かな学力が身に付く学校 3：健康と安全を大切にする学校
 4：教職員が専門性を高め合い、共に学び合う学校 5：保護者・地域等と共に歩む学校
 ☆目指す児童像：全教育活動におけるキーワード
 「**自己尊重**」⇒自分の「よさ」に気づき、自分を大切にする
 ⇒周りの人の「よさ」を認め、大切に思う
 ☆目指す教員像
 ◎「よさ」～find goodness～：「自己尊重」
 学校として、教師として、人間として、子どもたちの「よさ」を認め、引き出し、さらに伸ばしていくことを第一に考えていく。学校も職員も子どもたちも、「よさ」を生かし、笑顔で互いに高め合っていく。
 ◎「すべては子どもたちの笑顔と Wellbeing のために」～all for smile and wellbeing of children～
 “子どもたちが「心身ともに健康で幸せな感情が持続的である」ことは、私たちの共通の願いである。子どもたちを受け止め、寄り添い、自身の指導を常に振り返るとともに、かけがえないわが子を思う保護者の気持ちに寄り添って、最善の努力をしていく。
 ◎「Team 二小」～one for all, all for one～
 一人一人の「よさ」を生かし、その力が結集すれば、より大きな力となる。「二小 PRIDE」を胸に、「Team 二小」の一員として、学校・地域・保護者が力を合わせて笑顔 とともに教育活動を進めていく。

ビジョンの設定理由	学校は、子どもの健やかな成長のためにある。学校では、子どもが夢や希望をもちながら、自分の力を精一杯出して、より高い目標に向かって挑戦していくことが大切である。私たち教職員は、「子どもたちの未来に触れている」という、その「責任と誇り」＝「二小 PRIDE」を胸に、子どもたち一人一人と向き合い、受け止め、寄り添い、心を一つにして子どもたちの笑顔のために精いっぱい力を尽くさなければならない。 子どもたちが自分の「よさ」に気づき、自己肯定感を高めるとともに、他者を尊重しながら未来を拓く「生きる力」を育てるために私たち教職員も子どもと共に学び続けていく。そして、学校、保護者・地域住民などが相互に連携、協力しながら、笑顔とともに教育活動を推進していく。
-----------	---

中期的な経営目標

- 1 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と自ら学びに向かう児童の育成
- 2 自己肯定感をもち、粘り強く取り組む児童の育成
- 3 多様な価値観を認め合える児童の育成
- 4 自ら健康な生活を送ることができる児童の育成
- 5 安全・安心な学校づくりの推進
- 6 児童一人ひとりに応じたよりよい指導・支援のための特別支援教育の推進
- 7 地域の教育材・教育力を生かした教育活動の充実と学校運営協議会制度導入に合わせた地域連携の一層の推進

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①学校経営方針の柱として「自己尊重の精神の涵養」を位置付け、校長自ら全教育活動を通じて、自分や他者を大切にすることに関連して、教員、地域・保護者、児童に発信することで一層の涵養を目指す。また、「本物との出会い」を大切にしたい体験的な活動の一層の充実を図る。校外学習や外部人材の活用によりスポーツや障害者理解教育、伝統文化等に触れ、生きた知識や豊かな情操を育むことを目指す。	①各教科・領域等においては、「何のために学ぶのか」という学習の意義を児童と共有しながら、主体的な学び手として子どもが中心となり学び合う授業づくりへの転換、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。また、学力調査の結果を分析・考察するとともに、校内研究と関連付けて、他者と関わり合いながら主体的・協働的に学ぶ児童の育成をめざして研鑽を深める。	①日々の体育授業や体育的活動の充実を図ると共に、児童の運動の日常化を目指した取組の充実を図り、体力向上を目指す。マラソン、水泳、なわとび、鉄棒等の体育学習で活用するカードの充実を図り、休み時間や家庭でも日常的に運動に親しめるように学校・学年だより等を通じて家庭に啓発する。
②「二小スタンダード」・「二小の約束」に基づき全教職員が同じ視点で、学習規律・生活規律のある指導にあたる。特に「あいさつ」の励行については生活指導上の重点目標として位置づけ、地域・保護者・学校が一体となって意識をより高めることができるような新たな取組の創出について検討する。	②思考場面を大切にし、自分の考えを明確にもたせて、ペアや小グループ及び全体での話し合い活動を段階的に取り入れ、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えと比較したりする対話的な学習を推進する。	②校庭の芝生を有効活用した運動や体力テストの結果を踏まえた運動教具の開発や環境整備を推進したり、休み時間の工程や体育館使用方法を工夫したりすることで、運動に親しむ機会の創出を図り、体力の向上につなげる。
③異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで、課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図るなどして意思決定の能力の伸長を図るとともに集団の一員としての自覚をうながし、自主的・実践的な態度の育成を図る。また、行事ごとにそのめあてを明確化し達成感を味わうことで、自己の生き方について考えを深めると共に自己実現を図ろうとする態度を養う。	③習熟度別指導や講師による指導を活用し、学習の基盤となる資質・能力を明確にし、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。また、各学年や児童の学習状況や学習内容等に応じて教科担任制を一部導入し学習指導の充実を図る。	③児童の安全を最優先に考え、学校行事を中心とした教育課程の見直しを図るとともに、児童が安心して学校生活を送ることができるような保健・衛生面、生活の仕方について検討し、児童の指導に生かす。また、保健指導を定期的に行い、健康に対する理解を深め、健康的な生活習慣を身に付けさせる。

④人権尊重の精神を基盤とし、児童、教師、保護者、地域が一体となっていじめや体罰を許さない学校風土を醸成する。自分の「よさ」や他者の「よさ」、互いの違いを認め合い、自分も他の人も大切にすることを児童の育成を図る人権教育を推進する。	④児童1人1台タブレット端末をはじめとするICT機器を効果的に活用した授業を積極的に行い、児童の思考力・表現力、情報活用能力、メディアリテラシーを育む授業の推進を図る。	④食に関する教育計画を基に食に関する指導の充実を図る。また、給食配食前、配食時には毎日、管理職、学級担任、栄養士、調理師による除去食等の複数点検を行い、食物アレルギー事故ゼロを維持する。併せて喫食を伴う教育活動実施の際のチェックリストや保護者向け配布文書の活用を徹底することで校内アレルギー事故防止に努める。
⑤異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで、発達段階の違いなど、多様な個性を認め寛容に関わり合う気持ちの育成や互いに思いやる心・学ぶ合う心の育成を図る。	⑤全教員が学期ごとに指導案を作成配布・配布して相互授業公開をする。授業後には、1学期は基礎的な学力向上の基盤となる学級経営、2学期には学習指導要領の視点に立った授業改善に対する指導助言を行う。3学期には全教員が一単位時間または単元の中で児童の主体的・協働的な学びの視点に立った授業づくりが行えるようにする。	
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①学校評価アンケートでは、学習規律や基本的な生活習慣の確立等、縦割り活動とあいさつ運動について、肯定的評価90%以上をめざす。	①一単位時間または単元の中で児童が自分の考えを表現し交流する場面を必ず設定するとともに、学校評価アンケートでは「学習理解」「指導の工夫」に関する肯定的評価90%を目指す。	①体育授業では運動量を十分に確保し、運動欲求の充足と体力の向上を図る。また、学期毎に運動の日常化に結びつくようなカードを作成・活用し、学校評価アンケートでは、体力向上に関わる肯定的評価90%を目指す。
②年間3回のあいさつ運動を充実させるとともに、評価アンケートでは、あいさつの励行や豊かな心の育成について、肯定的評価90%以上をめざす。	②全国及び東京都が実施する学力調査では、各教科・観点等における正答率において、都平均値を上回る結果となることを目指す。	②給食配食前、配食時には毎日、管理職、学級担任、栄養士による除去食等の複数点検を行うとともに、喫食を伴う教育活動も含め、食物アレルギー事故ゼロを維持する。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 安全・安心な学校づくりの推進	5 特別支援教育の推進	6 保護者・地域との連携
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①毎週1回、生活保健夕会を開催し、共通理解を図るとともに、週ごとに適時性のある安全指導を行えるようにする。毎月の安全点検と合わせ安全指導を毎月実施する。	①就学支援シート、個別指導計画、個別支援計画の効果的活用を図り、校内委員会を基軸として校内通級教室、都・市SC、保護者、外部機関と連携を深め、一人ひとりのニーズに応じた支援を行う。	①本年度から導入される学校運営協議会による意見や評価を積極的に取り入れ、学校運営の改善を図るとともに、取組状況について積極的に情報発信を行う。
②全職員が学校生活及び施設設備における安全確保と危険回避に向けた改善意識を常に高くもち、役割分担を明確にしなが児童の安全を守る。休み時間等教員が児童と共に遊びに参加し、児童の安全確保に努める。	②週2回行われる職員打ち合わせを活用し、全教職員が情報共有を行い、特別に支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに、よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたることできるようにする。	②地域人材や地域の教育材を生かした第二小ならではの教育活動を推進する。地域学校協働本部が中心となり、既存の取組を大切にしながら、地域住民、保護者の協力体制を再整備する。また、地域関連行事及び次年度迎える開校80周年に向けては、これまで同様、地域関係者の協力を得ながら、地域・保護者、そして子どもたちにとって思い出深い取組となるよう、学校が連携し実施・準備を進めていく。
③全教育活動を通じて児童の道徳性を養うとともに、いじめの撲滅のため、いじめ対策委員会を随時開催し、未然防止と解決に努める。また、調布警察署や調布警察スクールサポーターと連携し情報収集を行い、問題行動の未然防止の取組を行う。		③学校ホームページは毎日更新することで、リアルタイムに教育活動の様子を伝えていくようにする。また、地域・保護者には学校安全・安心情報配信システム「すぐーる」や学校ホームページの活用・閲覧について機会を捉えて呼びかけていくとともに、必要な情報等についての意見交換をしながら内容の充実を図る。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①学校評価アンケートにおける「安全指導」「規範意識」「学校生活」の項目について肯定的評価90%以上をめざす。	①校内委員会を月1回開催し、特別支援教育コーディネーターが中心となって外部機関と連携した支援の在り方について検討し、改善策を提示する。巡回心理士、SCとは巡回及び勤務日毎に指導や支援のために有用となるフィードバックを受け、指導・支援に生かす。	①自己点検や学校評価アンケートでは、「地域連携」「情報発信」の項目について90%の肯定的評価をめざす。
②児童の振り返りや自己点検の結果では、90%の肯定的評価をめざす。	②自己点検や学校評価アンケートの結果では90%の肯定的評価をめざす。	②学校運営協議会を年6回開催し、学校運営について意見を求めるとともに、地域連携にかかわる評価を受ける。

人材育成・組織運営

○「Team 二小」～one for all, all for one～
一人一人の「よさ」を生かし、その力が結集すれば、より大きな力となる。「二小PRIDE」を胸に、「Team 二小」の一員として、学校・地域・保護者が力を合わせて笑顔とともに教育活動を進めていく。子どもたちの成長を願いながら、多様な課題、価値観、対応に対しては、一人で抱え込まず、組織的に対応していく。職員一人一人の「よさ」を生かしてそれぞれの役割を果たしながら、その力が結集させて「学校力」を高め、「Team 二小」として全教職員一丸となり教育活動を進めていく。

○主幹教諭・主任教諭を中心に日常的・意図的なOJTをそれぞれ推進しながら、職員相互に研鑽を図る。主任教諭には、学校運営にかかわる明確な役割を示し、組織貢献意欲を高めるとともに達成感を味わうことで、人材育成を図る。

○若手教員には経験年数や強みに応じた役割や教育実習指導担当、新規採用教員への指導・助言の機会を設定し、自己有用感を味わうことで、組織貢献意欲や人材育成に対する意識の向上を目指す。